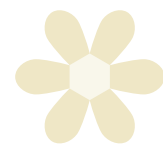
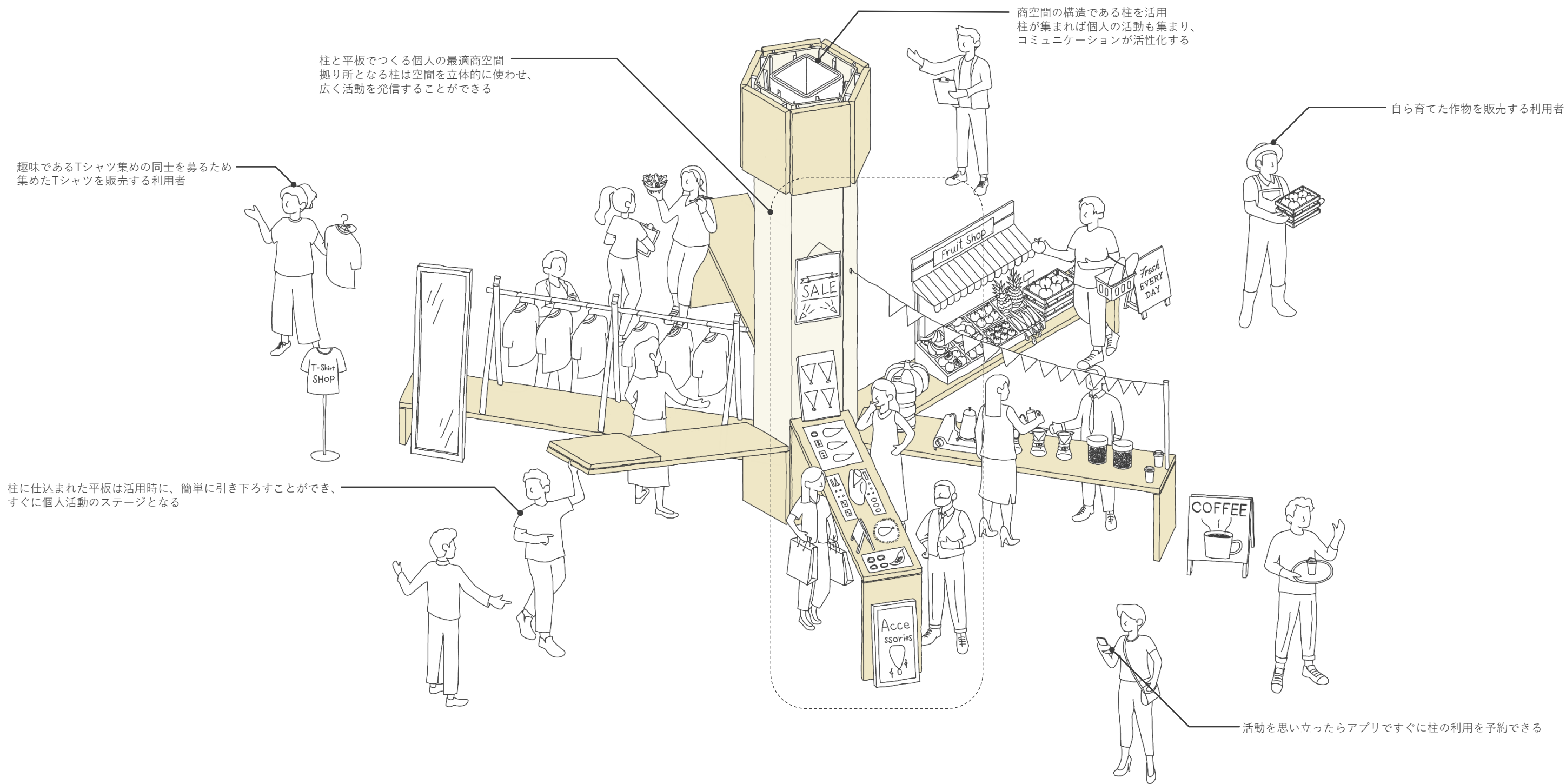


HANABASHIRA



YouTube、メルカリ、クラウドファンディングなど、ICTの発展とともに個人が自らチャンスを掴み、活躍する現代。これからの“こち良さ”を感じられる商空間は、一方的に与えられるものではなく、自らつくり出すものではないだろうか。自らのやりたいことに挑戦し、その中で同じ志を持つ人や応援してくれるファンとリアルで出会う。来訪者は各個人の様々な才能やアイデア・活動と出会い、これまでにない刺激を受ける。そんな“こち良さ”を感じる商空間を目指して、個人活動の拠り所となり、個人の活躍が花開く仕掛け「HANABASHIRA」を提案する。



“こち良さ”の定義

これまでの商空間とこれからの“こち良い”商空間

これまでの商空間は、企業が消費者に一方的にサービスを提供する場であるが、個人が活躍する現代では、そうした一方向の関係性には、人々がこち良さを感じにくくなってきている。本提案では、商空間での“こち良さ”を、自分らしく振舞え、自己実現できる場所として設定する。

- 本提案でのこち良さ
- 消費者の立場だけでなく、気軽にサービス提供者の立場になれば、自己実現に対して、その場で同志やファンからレスポンスが貰える空間
 - 各個人の様々な才能・アイデア・活動などに触れ、刺激が得られる空間



提案コンセプト

「やりたいことが花開く場づくり」

個人がやりたいこと、挑戦したいことを、気軽に、簡単に行える空間を提供することで、それぞれの自己実現のチャンスをつくる。

また、その活動を発信できる空間を提供することで、人の目に触れ、いろいろな人とのコミュニケーションが生まれる場をつくる。

活発なコミュニケーションの中から、また新たな個人活動が生まれてゆく。



具体的な仕掛け

柱と平板を組み合わせたシステムでつくられる最適商空間

広い床は個人活用のハードルを上げる。一方で、棚一つなど小さい単位は目立ちにくくコミュニケーションが生じにくい。

活動の拠り所であり目印となる柱に、活動のステージとなる平板を仕込むことで、個人が活用できる商空間を創り出す。

柱を中心に創られた密度の高い商空間は、提供者と消費者、提供者同士、予期せぬ出逢いなどの様々なコミュニケーションを生み出す。



 柱である理由

 柱の使いかた

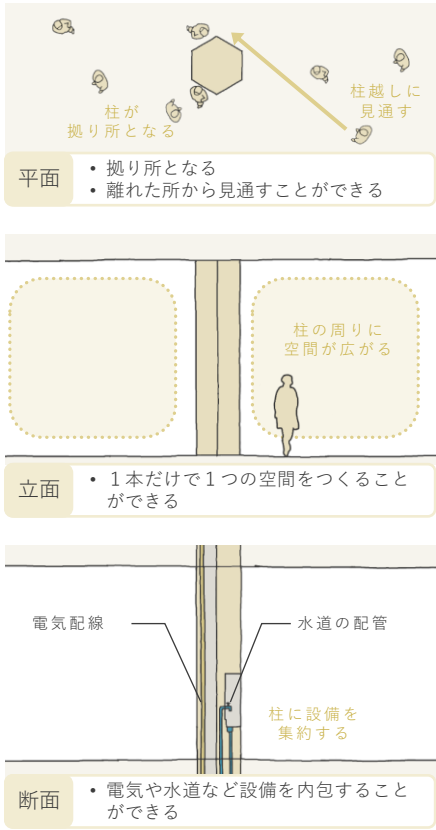
個人が気軽に使える商空間

柱は、1本あるだけで、その周りに空間の広がり生まれ、様々なアクティビティを展開することが可能となる。また、床・壁・天井など、その他の建築の構成要素と異なり、見通しや設備利用の観点で優れており、サービス提供者とファンの双方にとって“ここち良い”商空間となる。

本提案で計画する柱は、六角柱で構築し、それぞれの面から花卉のように平板を引き下ろすことのできる仕組みとする。この最小限の仕組みにより、個人はわずかな操作によって、1枚の平板を使い、気軽に、簡単に、活動することができるようになる。

一般的な商空間		本提案での商空間	
時間	長期間の利用が原則	▶	短時間での利用が可能
準備	内装から什器まで準備が必要	▶	什器類の準備が最低限
設備	各種インフラの準備が必要	▶	水や電気の利用が可能
空間	一定の大きさをもつ区画に限定	▶	小さな空間から利用可能
手続き	契約書の取り交わしが必要	▶	スマートフォンで完結

柱は、建築に必ず存在する構造体だが、建物全体の計画上、商空間の妨げになることもしばしばある。本提案は、その柱を活かして商空間をつくる提案であり、新築からリノベーションまで、柱がある空間であれば多様な場面で展開することが可能である。

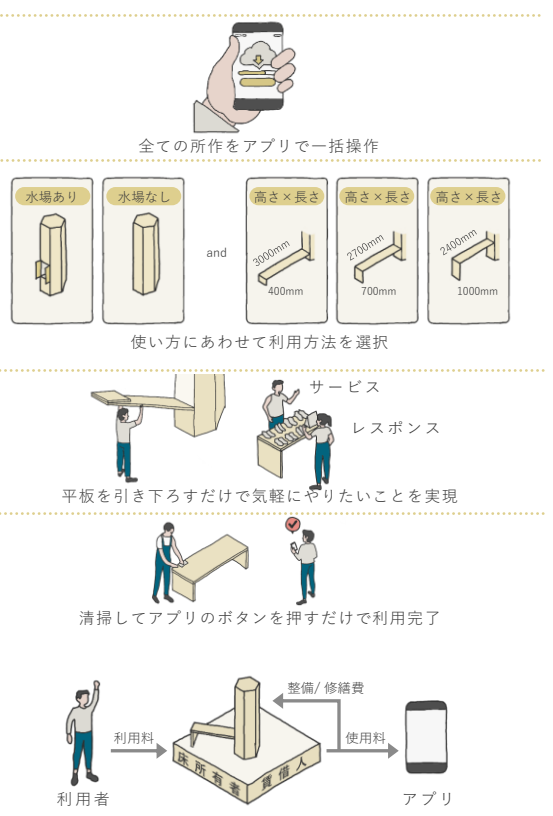


利用手順

- <STEP1> アプリのダウンロード
- 専用アプリをダウンロード。
 - アプリを通して、柱の予約から当日の利用、決済まで一括で操作することが可能。
- <STEP2> 柱と平板の予約
- 柱は、水場ありの柱と水場なしの柱の2種類から選択。
 - 平板は、高さに応じて長さが異なり、使い方に合わせて3種類から選択。複数枚の利用も可能。
 - 高さ×長さ ①400mm×3000mm , ②700mm×2700mm , ③1000mm×2400mm
 - 利用時間は最短1時間から30単位分で選択可能。
- <STEP3> 利用開始
- 予約した柱に向かい、専用アプリを起動し利用開始ボタンを押して平板のロックを解除。
 - 柱につけられた取っ手をもって平板を引き下ろし利用開始。
- <STEP4> 利用完了
- 平板と周辺の片付け・清掃を行い、平板を元の位置に戻す。
 - 専用アプリを起動し、利用完了ボタンを押して平板をロック。

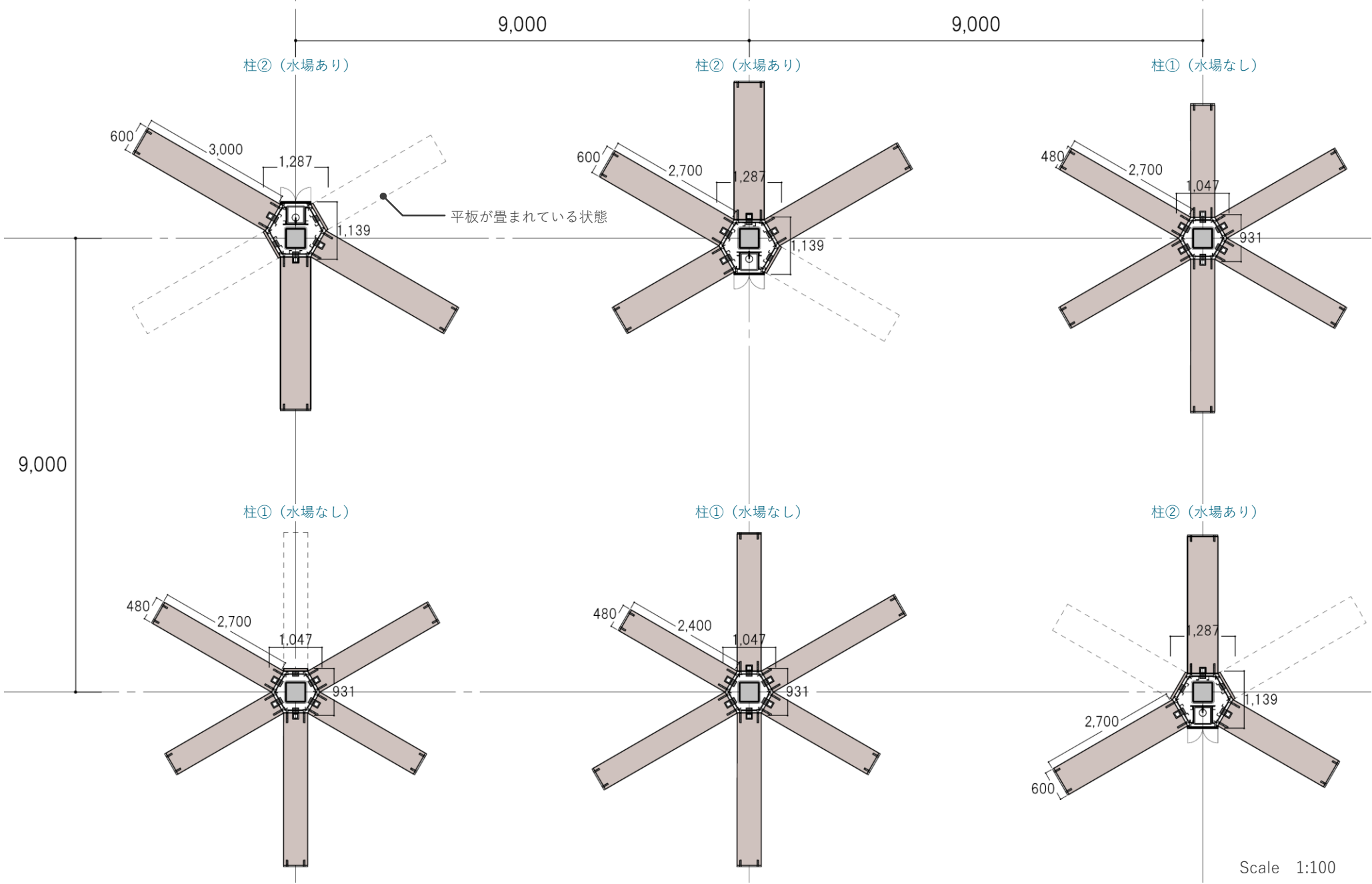
システムスキーム

- 柱の利用者が支払う利用料は、柱が位置する床の所有者（建物所有者や区分所有者等）又は賃借人に支払われる。
- 床の所有者又は賃借人は、利用料を収受し、維持管理のための人件費、アプリ使用料、整備費、修繕費等に充当する。



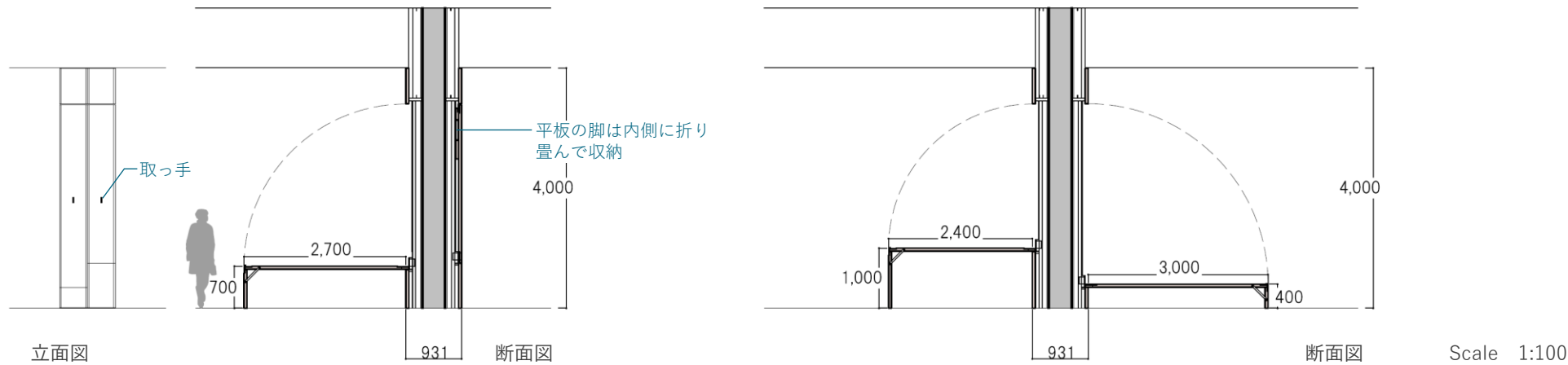
平面図

一般的な商業施設の柱スパンである9mスパンの空間において展開した場合。平板は高さに応じて長さが異なり、柱回りに多様な空間を創出する。



立面・断面図

天井高4mの空間で、水場なしの柱を展開した場合。
平板の高さは400mm・700mm・1000mmの3種類。平板を引き下ろすための取っ手や脚は平板と一体となっており、個人が容易に使用可能。



詳細図

水場を内包した柱の詳細図。給排水機能を持たせることで、飲食店等の出店にも対応する。

